

## 随

## 想

### 「縁々シンプルな繋がりでも…」

忘れかけていた過去が蘇ってくることがある。それは今の自分が形成される過程でも重要であったことを再認識させられることだった。当初出会った瞬間は、それほど大きく重要なことと捉えることはなかったのだが。

人との縁というものは不思議なもので、ともと太く繋がっていた間柄が時間と共に細くなることもある。また、ある日突然何かをきっかけにして再度太くなることもある。わずかにであったとしても、繋がりを保つことは大事なことだなと感じている。

よく人との繋がりを糸で表したりする。人と人との関係は始め細い糸で繋がっているようなものだ。ただ、目的を同じく共に長く時間を過ごすことで、その糸が集まって紐となり、最終的になかなか容易には切っても切れないような太い綱となることがある。よほどのことがない限り、人とつながることで自分が、そして自分の人生がより豊かになることを感じてきた。

今夏、旧知の人たちと再会することが多かった。若かりし頃ルームシェアをしていたイギリス人と20数年ぶりにフェイスタイムで話したり、愛知淑徳でハンドボールを初めて教えたOG達と久しぶりに再会し、当時「無学の王様」であったことを反省したり、それほど親しい同窓ばかりではなかったが、

それぞれの近況や高校時の記憶を辿る宴席を共にしたりした。

幸いにも、学校という場を借りて毎年人並み以上の人たちと縁を結ぶことができる。今後どのように発展していくか見当がつかないが、これまでと同様に自分に与える影響は少なからずあるであろう。自分の子どもたちはもちろん、生徒たちにも様々な機会を通していろんな人たちと巡り会うことを望んでいるし、そこから得られる変化しないこだわりと、変化することをためらわない柔軟さを身につけていつて欲しいと願っている。

教師としては、より多くのことをより多くの人に伝えていくために、難解さよりシンプルであることが最良であると考えている。人との出会いや繋がりも、よりシンプルであるほうが越えねばならぬ垣根もなく、広くコミュニケーションがとれ、より多くのことが身に沁みるのではないかと思っている。

